

中川淳庵 蘭方医、蘭学者。「ターヘル・アナトミア」入手し「解体新書」に。桂川南周と並び西欧学界に名知られた。

なかがわじゅんあん

🚢船出没始 1739 = 江戸で、\_小浜藩医中川仙安(龍眠)の長男に生まれる。

徳川吉宗隠居1745 = 6歳 :

忠臣蔵・・・1748 = 9歳 :

徳川吉宗没・1751 = 12歳 :

\_早くから蘭学に目覚め、同じ麹町居住の山形侯医師安富寄碩から蘭語を習い、

源内物産会・1757 = 18歳 : 田村藍水主催の第1回物産会に出品しており、

\_以後、各種物産会、薬品会に出品、開催もしている。

大岡忠光没・1760 = 21歳 :

加賀千代句集1764 = 25歳 : この年の平賀源内の火流布製造には、淳庵の蘭学知見による指導・助言によること大きかった。

蘭金銀錦絵始1765 = 26歳 : 幕府医官となる。

忠臣蔵大当り1766 = 27歳 :

\_江戸参府の蘭館長一行との交際も早くから始め、

御蔭参流行・1771 = 32歳 : \*「ターヘル・アナトミア」を入手するや、杉田玄白に連絡、前野良沢も誘い小塚原で観覧、翻訳にかかる。

田沼意次老中1772 = 33歳 :

大原騷動・・・1773 = 34歳 : \_玄白誌・淳庵校・熊谷元章図として「解体約図」を出版、

解体新書・・・1774 = 35歳 : \*「解体新書」を玄白らと出版した。

黄表紙始・・・1775 = 36歳 :

両月物語刊・1776 = 37歳 : \_江戸参府のオランダ商館医ツェンベリーから植物学・医学などを学び、

🚢船蝦夷来 1778 = 39歳 : \_若狭藩奥医となる。

天明大飢饉始1782 = 43歳 : \*「ティチングと学術的交換を行うなどして、桂川南周とともに西欧の学界に名を知られたが、

意知刺殺事件1784 = 45歳 :

田沼意次失脚1786 = 47歳 : 隔症(胃か食道癌)のため、没した。

「和蘭薬譜」「五液精要」のほか、日本薬局方の源といわれる「和蘭局方」も、未完ながら編訳していた。中国の暦算家梅文鼎著「等算」の訳もある。